

令和五年度

入学者選抜学力試験 国語(前期・経済) 解答例

一

問一 ア 親和 イ 助長 ウ なら エ 盤石 オ 唐突

問二

国家への依存だけではなく、国家以外の存在への依存も批判されなければならないが、実際にはそうではないということ。(五五字)

問三

福祉国家では、依存先となるのは匿名の多数の人々によって支えられる非人称的な連帯の制度であるため、特定の個人への人称的な依存関係の際に生じがちな搾取や権力関係を回避することができるということ。(九五字)

問四

資本制には、それを支える労働者の生命を蝕む負の影響があるため、その土台をみずから掘り崩す「自己破壊」の危険性が伏在しているという脆弱性がある。福祉国家は、その負の影響に人が直接晒されることのないよう整えられた制度としての一面があること。(一一八字)

二

問一 神の恣意と人の恣意を混合することでだれかの恣意への服従を中和する制度。(三五字)

問二

マイノリティの政治的無力感を解消するだけでなく、マイノリティ問題を積極的に取り上げるインセンティブを候補者に与えることになる。(六三字)

問三

多数決において、最も選好する候補者が当選する見込みのないとき、勝機があり、かつ次に選好する候補者に投票すること。(五六字)

問四

筆者は、運が左右するので自分ではコントロールできないという、くじ引き投票制と公平確率説との類似性をふまえ、くじ引き投票制は公平確率説を集合的意思決定に適用したものであると捉えている。したがって、救助の事例における公平確率説が支持されるのであれば、集合的意思決定においてもくじ引き投票制が採用されると評価している。(一五六字)